

絵本テキスト私論

内田麟太郎

文学よ さようなら

ということ、わたしの絵本テキストを、ここに公開することはすぐにも出来ます。またこう書けばいいでしょうという実際の助言も出来そうです。でも、それはこれから絵本のことばを書きたいというあなたにとって、あまりよいことのように思えません。それよりも絵本のことばを書きたいあなたには、もっと大切なことがあると、わたしには思えるからです。それは絵本のことばは文学ではないということ、このことを深く考えることが、絵本のことばを考えることだと、わたしは思っています。

文学よ、さようなら。

と、あなたがところからつぶやけたとき、あなたは絵本のことばを書けるでしょう。それがあなたには出来ますかと、わたしはまず問いたいです。これはとても簡単なようで実はまことに困難なことなのです。なぜならあなたが児童文学者だからです。その児童文学者であるあなたに、

絵本のことばは文学ではないという実物をお目にかけてみよう。

- ① おきやくがのります
ぞろぞろ ぞろぞろ
- ② がたごと がたごと
ぞろぞろ ぞろぞろ
- ③ がたごと がたごと
ぞろぞろ ぞろぞろ
- ④ がたごと がたごと
ぞろぞろ ぞろぞろ
- ⑤ おきやくがおります
ぞろぞろ ぞろぞろ

これは西村繁男との絵本『がたごと がたごと』（童心社）の五見開き分の絵本テキストです。おなじことばを三回くり返し、一冊分十五見開きになっています。最上一平さんは氏独特のユーモアで「内田さんの省エネ絵本」と呼ばれています。むろんというにはいささかはずかしいですが、この絵本テキストはいかにすれば絵本作家西村繁男